

福井県退教通信

編集・発行所
福井県退職教職員会
郵便番号 910-8544
福井市大手2-22-28
福井県教育センター内
電話 (0776)23-9191
第57号



第45回総会開催



新型コロナウイルス感染症拡大による影響から、日退教、北陸ブロック退教、県退教、各支部退教で予定された3〜6月の事業がほぼ中止となった。2020年度第45回福井県退職教職員会定期総会の開催も危ぶまれていたが、参加会員の健康と安全確保のため、研修会・懇親会の中止、参加人数の縮小、マスクの着用、密を避けるために座席の間隔を空けるなどの対策を講じ、なんとか6月29日に開催することが出来た。

奥本会長は、「本来なら東京オリンピックを前に華やいだ雰囲気になり溢れた日々のはずが、毎日繰り返されるコロナの状況や経済不況の報道に、不安をつのらせるばかりの毎日になってしまった」と挨拶された。

議事は、福田玲子常任委員の司会で進められ、報告事項では2019年度活動報告、

会計報告が承認された。

協議事項では、第1号議案「今年度の活動方針、スローガン『今を生きる ~つながり合って~』、事業計画などが承認された。

第3号議案では、規約の一部改正が提案され、今般のコロナウイルスの感染拡大のような「未曾有の事態が発生した場合、会長・副会長が協

2019年度決算

[収入の部]

項目	決算額
会費	2,421,000
入会金	330,000
助成金	850,000
繰越金・他	387,856
合計	3,988,856

[支出の部]

項目	決算額
印刷費	407,646
事務費	591,831
総会・会議費	430,026
支部活動助成費	1,370,122
旅費・負担金	271,140
親睦費・賃借費他	316,443
積み立て金	200,000
繰越金	401,648
合計	3,988,856

2020年度予算

[収入の部]

項目	予算額
会費	2,450,000
入会金	400,000
助成金	850,000
繰越金・他	401,660
合計	4,101,660

[支出の部]

項目	予算額
印刷費	500,000
事務費	690,000
総会・会議費	660,000
支部活動助成費	1,418,000
旅費・負担金	250,000
親睦費・賃借費他	330,000
積み立て金	200,000
予備費	53,660
合計	4,101,660

2020年度主な行事

4月	会員勧誘活動
5月	支部総会(〜3月) 19~20 親睦旅行(南紀を巡る)中止
6月	12 日退教定期総会(東京)中止 17~18 北プロ定期総会(福井)中止 29 第45回定期総会
8月	1 教育請願署名活動 22 退教通信第57号発行 教職員体育大会(奥越)中止
11月	9 教研集会(福井)
12月	1 退教通信第58号発行
2月	中旬 退職者入会説明会
3月	3 代表者会

議して決定する」を追加することが承認された。第4号議案では役員改選が行われ、10年という長年に渡り事務局長、会長を務められ

た奥本明義氏が退任され、新しく池上敏和氏(福井支部)が会長に就任された。その他、役員については下記の通りである。

なお、今年度の親睦旅行は、コロナウイルス感染拡大の恐れがあるため中止にした。



2020年度役員・支部長一覧

◆ 会長 池上敏和
◆ 副会長 小林賢三
◆ 常任委員 桑原さとみ

◆ 福井

◆ 奥越吉田坂井
◆ 鯖丹・南越 嶺南

◆ 監査委員

◆ 顧問

◆ 支部長

- 福井 廣瀬 行雄
- 大野 野田 陸夫
- 勝山 藤田 寛治
- 坂井 川端 寛治
- 鯖丹 伊藤 悦雄
- 鯖丹 細江 敏雄
- 丹生 松山 文雄
- 武生 近藤 数信
- 今立 小林 賢三
- 南条 米野 眞一
- 敦賀 岡本 眞章
- 三方 河合 善信
- 上方 小堀 政志
- 小浜 山田 善信
- 飯浜 福島 紀男
- 大浜 法山 寿子
- 編集委員 松枝 恵子
- ◆ 事務局 山崎 照夫
- ◆ 事務局長 塚本 雅洋
- ◆ 次長 嶋本 享恵
- ◆ 次長 野阪 恵子
- ◆ 担当書記 恵子

新任挨拶

組織の存在意義を今一度



新会長 池上 敏和

この度、福井県退職教職員会総会において会長に選出されました池上敏和です。奥本前会長の後を引き継いで、会員の皆様とともに歩んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

この組織の課題として、組織率の低下があげられます。昨今、「退職〇〇会」共通の課題だとは思いますが、「何としても、この組織だけは守ろう」という気概を持って皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っております。それには、この組織の存在意義を明確にして、新規退職者への勧誘を進めていかねければならないのではないのでしょうか。

私の考える組織の存在意義として、次の二つを掲げたいと思っております。

- ①会員間の親睦を図る
- ②現職教職員及び子どもたちの応援

一つ目は、退職すると、どうしても地域や家庭に閉じこもりがちになります。第二の人生で大切なのは、先輩の受

け売りですが、「今日、用事がある」(教養)と「今日、行く所がある」(教育)ではないでしょうか。総会・懇親会及び研修旅行等に参加して、「現職時代の楽しかったことや苦労したこと」や「今、ハマっていること」などを語り合うのは、どうでしょうか。

二つ目は、30〜40年の長い間、教育界にお世話になりました。これからは、その教育界に恩返しをしてみたらどうでしょうか。昨今、教育の現場は多忙を極め、働き方改革などという言葉が出現しています。現職教職員や子どもたちの応援団として、少しでもいい、手伝いできたらと思います。もう、実践されている方々もいらつしやると思えますが、この退職教職員会という組織として、明日の子どもたちのために少しでも貢献出来たらと思います。

今後、皆様方のご意見並びに各支部の取り組みを頂戴しながら、福井県退職教職員会の活動がより活発になるよう、全力を尽くして参りたいと思っております。ご協力、ご支援の程よろしくお願いいたします。

つながり合って



新副会長 小林 賢三

スタートが『コロナウイルス』によって今までにない形となりましたが、副会長のご指名を受け、微力ですが、皆様のご協力をいただき、その責を全うしたいと思っております。子どもの頃、60・70代の人を見ると、お年寄りだな、と思っていました。自分が今その年齢になり、そんな自覚は少しもありません。それどころか、「人生百年時代」な

る言葉さえ耳にするようになっていく時代です。このように、退職してからの人生が次第に長くなり、退職後の人生を如何に過ごすかが重要になってきたと思っております。新しいことに挑戦、趣味を生かして活動するなど、第二の人生を有意義に過ごしていく一役に、この会が少しでも役に立てることを願っております。

コロナ禍で、人生はお互いの関わり合いの大切さを改めて確認させられました。このことを忘れず、お手伝いさせていただきます。

心は密に



新副会長 桑原さとみ

私は、今も週に数時間教壇に立ち、子どもたちの笑顔や反応に直接ふれる機会をいただいています。

しかし今年度、教室の雰囲気は一変しました。密を避けるため、机の間隔を広くとり、マスクは必須です。こうなると、子どもたちの表情を読み取ることも、つぶやきを聞き分けることも困難になり、物足りなさを感じます。

県退教でもコロナ感染防止のため、予定していた行事を中止したと聞いています。今後も「新しい生活様式」を意識し、運営していくことになると思いますが、会員相互の心は密でありたいと願っています。

私自身大変微力ですが、他の役員と力を合わせ、活動を盛り立てていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。



新たな時代へ



福井県教職員組合 書記長 堀 紘

今回県退教事務局の仕事をさせていただくことになりました。社会とつながり、自分を生かすことのできる場をあたえていただいたご縁に感謝しています。誠意をもって務めさせていただきます。



新事務局次長 塚田 雅洋

平成27年度から2年間、至民中学校で勤務しながら福井大学教職大学院で学ぶ機会をいただいた。そこで、多くの方々と実践を語り合い、教育観を豊かにすることができた。その頃、「予測不可能で複雑な未来を自立的に生き抜く力」といったキーワードをよく耳にした。当時は、正直ピンときていなかったが、今思えば、まさにこの「コロナ禍」が当てはまる。

3月上旬からの約3ヶ月に及ぶ臨時休業期間を経て、学校現場は激変した。文科省より「学校の新しい生活様式」が発表され、教員は毎日その

退任挨拶

前会長 奥本 明義



コロナ感染の外出自粛規制で、開花期間の短いセンダイハギやニッコウキスゲをじっくり愛でることができました。共に県退教の研修旅行先で心惹かれ手に入れたものです。

事務局を含め10年間の県退教の世話役を終えるにあたり、今の思いを述べます。一つ目は、組織を維持していくことの難しさと大切さです。新規加入者の減少傾向に加え、会員の高齢化によって、会員数が減り続けています。

県退教の創立50周年に当たり、設立時の趣旨・願いや、改革期の議論や英断の記録をひもとき、組織として「つながり合う」ことへの熱情や尊さを再確認させられました。

時代や社会の変化に応じた改革を加えながら、組織を繋ぐ責務を痛感しています。

二つ目は、退職後も、地域や仲間の要請に応じ、「今できること、求められること」を見出し、輝きに満ちた生き方をしてもらえる多くの方々

との出会いによる喜びです。意気揚々と活躍されている先輩諸氏の姿から、楽しいセカンドライフを編み出す秘訣を学びました。

三つ目は、趣味の植物の世話やモノ造りと、県退教に関する思案や外出機会のバランスが程よく保てたことです。

たっぷりある自由時間を満喫するためにも、「今日すること、したいこと」を思い描いて、気分良く朝を迎えられる喜びです。

適度な刺激や出会いは、新しい発見につながり、老いてなどいられないという感じの日々でした。

最後に、県退教を支え、応援していただいた会員や役員をはじめ関係機関の皆様から御礼申し上げます。

そして、今、我が家の庭で2ヶ月以上も長く咲き続けているブーゲンビリアのように、県退教が新役員のもと、ますます発展し続けることを祈念して、退任の挨拶とします。



前副会長 新門 潔

福井県退教職員会員の副会長という大役を仰せつかって早二年。任期が終わろうとする今、果たして、会員の皆さんのお役に少しでも立つことができたのだろうかと思問自答しています。

さて、何事も大過なくと思っていた矢先、新型コロナウィルスの猛威が日本中を駆けめぐり、百年に一度の国難が私達に襲いかかっています。自粛に次ぐ自粛で、平穏な日々は失われ、「新たな日常」という理解できない表現まで飛び出し、新型コロナウィルスは、私達を分断し、孤立化させています。

クラスター、パンデミック、テレワーク、リモートなど、聞き慣れない言葉が飛び交い、治療薬やワクチンがないことで、先の見えない不安に晒されています。

しかし、こういう時こそ、私達一人ひとりの生命と生活を守るために、力を合わせて、この国難とも言わなければならないのではありませんか。

前副会長 角谷 和子

この6月で、2年間の任期を何とか卒業させていただくことになり、これまでの皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

昨年度の統一選挙では、退教の力強い底力のお陰で、順

調に私達の思いを議会に届けることができました。

ところが今年、コロナウィルスの影響で予定行事が次々と中止となり、私達高齢者にとっては体力的にも精神的にも恐怖と不安の毎日を送ることになってしまいました。

今や外出自粛ムードの中で、人との触れ合いを避けるリモートワークやロボット社会への移行が一気に加速しています。しかし、隔絶された人間関係に不安を感じる人も多く、社会の本質を再思考する声も上がっています。困難な時ほど、人間の弱さを共有し、深い絆で支え合い、感謝し合える信頼感が必要でないでしょうか。

私も退教メンバーとの信頼感を大事にしなが、互いの健康を祈りたいと思います。有難うございました。

前事務局次長 早瀬 惇子

6年半、事務局の手伝いをさせて頂く中で、会員の皆様との出会いや各支部から届く動向に、知恵と勇気とパワーを頂きました。また、一緒に感動したり、喜びや悲しみを分かち合えたりできる組織の素晴らしさも実感できました。私なりに充実した日々でした。

県退職教職員会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

対応に迫られている。また、「GIGAスクール構想」により、国は「児童生徒1人1台端末」の配置を進めており、今年度中には配置を完了する見込みである。つまり、国はICT環境の整備はもとより、その教育的価値を推奨していることになる。「新しい生活様式」に従うと、今まで「良」とされていたことが「悪」となる場合や、その逆も多々ある。常識は覆され、例年踏襲では教育が成り立たないことも多い。つい最近まで、小中学生がタブレット等の端末を持つことを「良」としていなかったはずが、今では国が学びを保障するために必要不可欠であると訴えている。そんな状況で教員も大きく変化することを求められている。このような事態を乗り越え、新たな時代を築いていくには、これまでの習慣にとらわれず、新たな視点で物事を考えていく力が必要だろう。これからの時代の担い手である子どもたちと私たち教職員が協働し、新たな学校生活様式に「わくわく感」を抱きながら、この危機を乗り越えていかなければならない。今こそ、私たち教職員が「生きる力」を発揮し、課題を一つ一つ乗り越えていく姿を子どもたちに見せることこそ「withコロナ時代」の新しい学校像と捉え、一歩ずつ踏み出していきたい。



コロナ時代の合唱活動

鯖江支部 田中 幸一

私たちは60歳以上の男性に呼びかけて、「男性合唱団ゴールデンエイジふくい」という合唱団を結成し、今では80人の仲間がいます。今年5月24日に15周年記念演奏会を計画していましたが、コロナ騒動でやむなく中止せざるを得なくなりました。

今回の地球的なコロナの大流行は、すべての「現代文化」(教育、経済、文化芸術、スポーツ等)をぶち壊したような気持ちになります。

そして、今や歌(合唱)は、学校からもハーモニーホールからも拒否されてしまいました。最も大切にしていた文化を育て、広げ、私たちが豊かな社会に導いてくれた現代文化の発信地(学校や文化ホール、スポーツ施設等)から遠ざけられてしまいました。

そこで、5月31日の福井新聞で出会った言葉に私は共感し、ここに取り上げます。

【コロナ時代の僕】 パオロ・ジョルダノ著

「…人間が自然を破壊しそこに暮らしていたウイルスが人間社会に『引越し』してきた。人間が現在の生活を変えない限り、ウイルスは何度でも襲ってくるだろう。…」吉川宏志(歌人)評

今回のコロナ禍で私は、人間中心の気まま勝手な思い上がりは許されない、という重要な気づきもありました。

5月26日には、久しぶりに私たち希望者のみ「福井健康の森広場」に集いました。健康の森の木々たちも、私たちのハーモニーを快く受け止めてくれたように思います。仲間は素晴らしいです。



おしゃべりサロン

三方支部 加藤 義一

退職後、集落の福祉活動に関わってきました。子ども相手の教育から老人対象の福祉活動に変わって、やや戸惑いもありました。でも、本質的には大して変わらないなと思っています。

毎週月曜日、午後2時から4時まで「河崎さんち」という空き家を利用して、おしゃべりだけの活動を続けています。一人暮らしの老人が多く、ほとんど女性です。男性は私だけのことが多く、参加者に違和感を持たれるかなと心配していました。

そこで、みんなの邪魔にならないよう、折り紙で「薬玉づくり」に専念しています。60枚で一つ完成です。大体1ヶ月かかります。この薬玉は、病院の見舞いに持参して喜ばれ、最近では葬儀の棺に入れさせてもらっています。

「今日初めて他人と話をするのよ。」

「家にいても退屈なんや。ここに来ておしゃべりするとストレスが解消するなあ。」

以前はアルバムを見せ合ったり、編み物を教え合ったりゲームをしたり、多様な活動もありましたが、最近は世間話が多くなっています。

おしゃべりサロンは17年以上続いています。参加者は4、5人ですが、10名以上の時もありました。

「継続は力なり」です。今では、集落の居場所として、貴重な存在となっています。



啓翁桜の販売始めました!

今立支部 木戸 康則

41年間の学校事務職員としての勤めを終えて、第2の人生は好きなことをやろうと、日曜大工に凝ってみたり、スケッチブックに人物画を描いてみたり、地域づくりに精を出してみたりしました。好きなことを見つけるのもなかなか難しい。いつしか地域づくりの延長から桜の栽培を始め、啓翁桜に行き着き8年になります。

啓翁桜は、促成栽培した「冬に咲く桜」です。切り花として販売されています。最大の難関は促成の方法と考え、まずは促成室の作成に取りかかりました。オイルヒーターと加湿器を設置して完了しましたが、頑張り過ぎて腹痛を起こし病院に急行。

思案の末、大型保冷庫を購入し、温湯処理用湯舟の作成に取り組みました。電気湯沸器を設置して、休眠打破を試行錯誤しましたが、なかなか難しい。

苗木から4~5年かけて、ようやく枝が取れる成木になります。その間の雪囲いは結構大変な作業で、草刈り月に1回では足りません。草刈り機も2台購入しましたが1台は1年で故障。消毒は散布機を購入し、年3回ほどしますが、足腰に応える重労働で、あと何年できるかと不安に思います。

苗木を25本購入し挿し木や接ぎ木で増やし、今は800本近くになりました。

3年ほど前からようやく、年末から3月頃まで「冠荘」「こってコテいけだ」ベルの「こっぽいや」での販売にこぎ着けました。

100歳まで、頑張れば採算が取れるようになるかも?



つながり

地域の一員として

三方上中支部 河村平右衛門

退職して早 9 年余り。退職した年に集落の区長の役があたり、その後も地域や集落などのいろいろな役職等が回ってきて、大変多忙な毎日が続いている。

しかし、退職したら地域のために何か自分にできることがあればやってみたくて考えていたところ、地元の明倫地域で「明倫買い物クラブ」が誕生した。これは、若狭町明倫地域の中で、自分でなかなか買い物に行くのが困難な高齢者のために、町社協の福祉貸出車両（ワゴン車）を利用し、町内の量販店まで買い物の送迎をするというものである。利用者は週 1 回であるが、運転ボランティアは月 1 回程度なので、発足当初からボランティアとして登録し、活動している。



利用される方は、買い物の日をとても楽しみに待っておられ、当日は集合場所に次々と集まって来られる。行き帰りの車の中では、賑やかな会話や笑い声が絶えず、利用する人たちの楽しみの場の一つとなっているようである。私も、「ステップに気をつけて」「あわてんとゆっくりでいいから」「昨日は何しとんだったの」などできるだけ声かけするよう心がけ、帰りは家まで送って荷物を玄関前まで運ぶようにしている。

「明倫買い物クラブ」が誕生して 7 年余り経つが、「お世話になって」「重い物も買うことができとても助かるわ」などの言葉を聞くと、地域の一員として少しは恩返しできているのかなと実感している昨今である。

繋がりとお抜き

敦賀支部 岡本 章

市の隣保館で副館長としてフルタイム勤務する傍ら、梅酒や梅シロップに梅ジャム、干し芋に蒸し芋、金柑酒に金柑ジャムを作って来館者に配ったり、正月盆栽の講習会(?)を開いて地域の人たちに喜ばれている。「ブタもおだてりゃ…」で、私も嬉々として繋がりを楽しんでいる。



一方で、当市には別の退職教員団体（私も会員）もあり、県退教会への無理な勧誘を行っていない。それは即ち前者への新規加入者の減少に繋がるからだ。「魅力ある団体とは?」「入りたくなる支部活動とは?」で支部長として悩みが尽きない。加えて大きな役を引き受けてしまった。

まず居住町内の副区長。区長を補佐する立場として町内行事を担当したり、会議に出たり、今までになかった人の輪や地区との繋がりを経験させてもらっている。現在、地番変更と新型コロナを見据えた防災マップの課題を抱えており、少しでもお役に立てればと思っている。



そして敦賀人権擁護委員協議会の会長。もとよりその器でもなく、この組織を俯瞰的に見たこともなかったので、当の私が最も心配している。「人権は万(よろず)」であり、関係する行政各課や他団体の人たちとの繋がりをも深めていきたい。

あちこちに顔を出させてもらう機会が増えたからこそ、息抜きが必要で、今は実家の畑にハマっている。片道 35km の運転は少々きついですが、サツマイモ、ジャガイモ、タマネギ、ニンニク、菊イモ、夏野菜を育て、収穫の喜びと感謝、そして何より無心になれるため、息抜きと気分転換としては最高である。

古希が迫り、身体も昔のように使えなくなった。ポチポチ続けていきたい。

親睦旅行 「中止」の お知らせ

南紀を巡る

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道と南紀勝浦温泉の旅」

をご案内しましたが、今般の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の旅行は、**中止**させていただくことになりました。参加を希望されていた皆様には大変申し訳ありません。



池ヶ原湿原と花ものがたり

勝山支部 北川 博正

池ヶ原湿原は勝山市平泉寺町池ヶ原にあり、奥越高原牧場に隣接しています。面積約3ha、標高609mでヨシが主体の小規模な低層湿原です。木道沿いには5月のレンゲツツジに始まり、10月初旬まで多くの花々が咲き誇ります。どの花にも個性があり素晴らしいのですが、あえてお奨めするとすればミズチドリです。

ラン科のミズチドリは初夏に咲く純白の花で、姿・香りいずれもが最高です。しかも、県内ではここ池ヶ原湿原が唯一の生育地なのです。

かつて、現在の池ヶ原湿原一帯は吉田芦原沼と呼ばれ、結城秀康が1867年に玄成院を平泉寺に寄進し、その雪囲いに用いるヨシズを作るためのヨシの刈り場でした。その後、地域住民にも開放され、昭和30年代まで続けられました。

1796年に小笠原藩主が菖蒲見物に訪れるが、大雨で引き返したとの記録があります。菖蒲とはカキツバタのことでしょうか。

南六呂師上谷野湿原で、昭和11年にサギスゲが大野中学の本多先生により発見されました。



サギスゲ

そのサギスゲが2017年に、植物研究家多田雅充氏により池ヶ原湿原で確認されました。絶滅したと思われる植物の再発見は81年ぶりのことです。

2009年当時の池ヶ原湿原は、木道はあっても普通に立ち入ることのできる状況ではありませんでした。

そこで、記録に残るかつての植生を目指して、県は湿原の保全再生事業に着手しました。湿原に負荷を与えないよう重機を使用せず、慎重な作業の結果、2011年にはノカンゾウ、ミズチドリ、カキランが千株単位で開花しました。

ところが、2014年にそれぞれの花が2桁台に激減し、湿原連絡協議会で対策を講じましたが、現在も花の回復の兆しは見られません。

2017年には協議会名を「池ヶ原湿原保全・活用協議会」に改め、会員の皆さんには6月にオオハンゴソウの抜き取り、10月にヨシ刈りの奉仕作

業をお願いしています。私は、湿原保全の一側面として水位と水質の調査をしています。地下水位の低下は植物の生育にダメージを与えます。池ヶ原湿原は弱酸性で、富栄養にならないか電気伝導度も計測しています。



ノカンゾウ

池ヶ原に來られた皆さんに声を掛け、湿原を巡りながら、いっしょに課題も共有できれば最高です。



観光ボランティアガイド「若狭の語り部」

小浜支部 羽野 二郎

*お客様が希望される寺社や古い町並みなどを案内する活動

*道の駅「若狭おばま」で旬の観光情報を紹介する活動

*学校や公民館等に出向いてふるさとの歴史や偉人などについて話をする活動

それらの活動をいくつか紹介します。

小浜は『海のある奈良』と称されるほど数多くの文化財があるところです。その代表が、国宝に指定されている明通寺の本堂と三重塔です。妙楽寺には、国指定重要文化財の二十四面千手千眼観音菩薩立像が安置されています。

若狭国は、奈良に都があった時代から、朝廷に食材(主に海産物)を供給していた御食国(みけつくに)として重んじられたところです。

小浜湊は北前船の寄港地であり、鯖街道の起点でもあります。

最近、鯖の養殖が始まりました。餌に酒の粕を配合することから、「酔っぱらい鯖」というブランド名になりました。3月2日には、若狭神宮寺と鶴の瀬で「お水送り」が行われます。

9月中旬には、若狭地方で最も大きい秋祭りである放生祭(ほうぜまつり)があります。解体新書を著した杉田玄白、明治維新の先駆けとして東奔西走した梅田雲濱は小浜の偉人です。

人魚の肉を食べた16歳の少女が八百歳まで生きたという「八百比丘尼伝説」もあります。



人魚伝説の像

若狭塗りの箸は、塗り箸の全国生産の8割を占めています。日本遺産認定が2件、重要伝統的建造物群保存地区選定が1件あります。

このように、数ある名勝を案内するガイドの内容は多岐・広範に亘ります。私は、その土地に住んでいる者にしか知り得ない「着地情報」を語るように心がけています。

史実を基本にしながらも、時には伝承を、時には冗談を交えながらガイドをすることによって、笑いを持って、また、満足感を持って帰ってもらえるように努めています。

モットーは、『笑顔でお迎え、笑顔でガイド、笑顔でお見送り』です。



2019年度 支部の活動状況 (支部長・会員数は2019年度名簿による)

<現況> 会員相互の親睦を深めるとともに、地域の教育支援やボランティアなど各実情に合わせた活動を実践している。

福井

〈支部長〉廣瀬 行雄
〈会員数〉801名 〈会費〉2000円

- 総会・懇親会を開催 ○学習会実施
- 日帰り研修旅行実施 ○加入勧誘促進
- 通信「カタイケノー」の内容充実
- 総会内容の充実と交流の促進
- 教育実践集発行、現職へ配付

吉田

〈支部長〉加藤 哲郎
〈会員数〉111名 〈会費〉1500円

- 総会・研修会・懇親会を開催
- 1日研修・坂井市三国湊を訪ねる
- 被災地への支援活動(募金)
- 旧交を温め参加しやすい総会
- 地域教育力を高める運動

大野

〈支部長〉川端 寛治
〈会員数〉143名 〈会費〉2000円

- 総会・懇親会を開催・臨時総会開催
- 日帰り研修旅行の実施(鯖江市・BBQ)
- 米寿祝い家庭訪問(7名)
- 入会率向上、若い人の参加促進
- 研修旅行への参加増を図る

勝山

〈支部長〉丹後 清明
〈会員数〉151名 〈会費〉1000円

- 研修会・総会・懇親会を開催
- 文集「なにか一言」集の発行
- 研修・情報交換・ボランティアを推進
- 地域の教育活動の積極的支援

坂井

〈支部長〉細江 悦雄
〈会員数〉287名 〈会費〉1000円

- 総会・研修会・ランチ会の実施
- 日帰り研修旅行の実施
- 参加しやすい総会・研修会の工夫
- 若い人、女性の参加促進
- 会員の勧誘の工夫

鯖江

〈支部長〉伊藤 敏晴
〈会員数〉204名 〈会費〉1000円

- 総会・懇親会を開催
- 研修・会員から体験談等、話題の提供
- 長寿記念品贈呈5名
- 新規会員の加入促進
- 総会・親睦会の参加率向上

丹生

〈支部長〉平沢 藤徳
〈会員数〉120名 〈会費〉2000円

- 役員会、総会・懇親会の実施
- 講演会の実施。
- 会員の話を生きがいづくりの参考とする
- ゴールド会員制の充実

武生

〈支部長〉吉田 弘
〈会員数〉231名 〈会費〉1000円

- 総会・懇親会の実施
- 隔年ごとに講演会を実施
- 募金活動(ユニセフ)
- 行事への参加者拡大を図る
- 未加入会員の勧誘に努める

今立

〈支部長〉小林 賢三
〈会員数〉53名 〈会費〉1500円

- 役員会・総会・講演会の実施
- 親睦を深める親睦会実施
- 研修・親睦会の参加率向上
- 県退教と連携した活動参加

南条

〈支部長〉大塚 富雄
〈会員数〉39名 〈会費〉1000円

- 1泊2日で総会、懇親会、研修会を開催(情報交換・高齢会員の近況確認)
- 過年度対象者も合わせ入会の勧誘活動

敦賀

〈支部長〉岡本 章
〈会員数〉22名 〈会費〉1000円

- 総会および研修会の実施(3月中旬)
- 支部組織の維持、拡大を図る
- 規約の検討と決定

三方

〈支部長〉芝井あさ子
〈会員数〉37名 〈会費〉1000円

- 役員会、総会、懇親会の開催
- 研修旅行(淡路島方面)実施
- 行事への参加者拡大
- 他支部との連携協力の模索

三方上中

〈支部長〉大下 恭弘
〈会員数〉94名 〈会費〉1000円

- 総会・研修会・懇親会の実施
- 懇親会(忘年会)の実施
- 若狭町退教通信の発行
- 地域の教育を積極的に支援する
- 会員相互の親睦を図る
- 行事への参加者拡大を図る

小浜

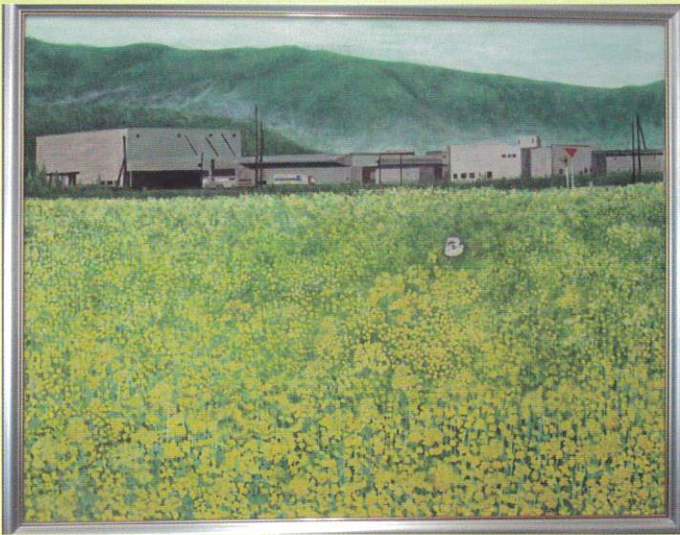
〈支部長〉坂田 稔
〈会員数〉123名 〈会費〉1500円

- 支部総会・研修会開催
- 大飯支部と合同で、総会、講演会、懇親会を実施
- 会員の見聞を広め、親睦を深める
- 退職者の加入促進を図る

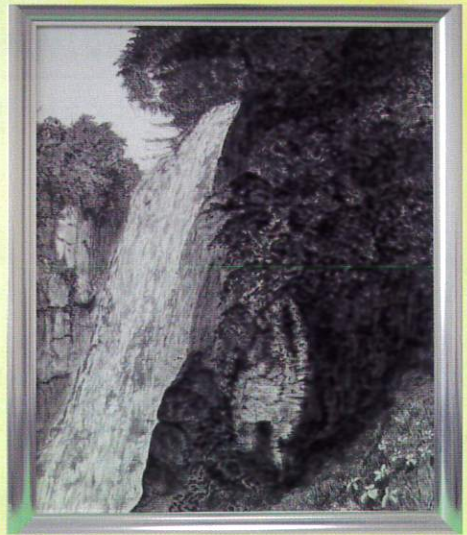
大飯

〈支部長〉福島 紀男
〈会員数〉53名 〈会費〉1000円

- 小浜支部と合同で総会、講演会、懇親会を実施
- 行事への参加者拡大を図る
- 退職者の加入促進を図る



日本画 「陽春」小西 信子 氏



水墨画 「石川・綿ヶ滝」 川端 寛治 氏



手芸 「パッチワーク」
滝波 和子 氏



県退教ミニギャラリー作品より



陶芸 「壺 2点」長谷川 信氏

絵画・写真・工芸手芸
品・書・短歌俳句等
お気軽にご出品下さい。
ご連絡は県退教へ。
心に残る作品が出品さ
れていきます。近くへお
越しの折はぜひご鑑賞
下さい。

ミニギャラリー
作品募集

編集後記

世紀の危機となった新型コロナウイルスによる社会の変化は、教育界に課題と変革を、退職者にも健康や将来への不安をもたらしています。この事態により、今号のシリーズ「お元氣ですか」等は、接触による不安がありましたのでお休みさせていただきました。今回もご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。会員の皆様は、懸命にお過ごしのことと存じます。ウィズコロナで何とか乗り切りましょう。
(法山寿子・松枝恵子・福田玲子)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|------|--------|-------|------|----------|-------|--------|------|------|--------|-------|--------|------|--------|-------|--------|--------|------|--------|--|
| 大西輝 | 林貢 | 南木瞳 | 佐々木 | 田笑美 | 池田健吾 | 池田健吾 | 廣橋道雄 | 高橋静雄 | 樋田英男 | 坪沢亮子 | 引藤満子 | 齊藤美代子 | 竹内繁子 | 山崎昭典 | 高橋藤二 | 坂手積成 | 北川八代枝 | 宮崎清和 | 松森清枝 | 〔福井支部〕 | |
| 83 | 90 | 90 | 87 | 89 | 92 | 84 | 82 | 95 | 75 | 93 | 95 | 92 | 87 | 83 | 93 | 90 | 92 | | | | |
| 佐々木悦夫 | 福田キミ子 | 山本長平 | 〔鯖江支部〕 | 小島久美 | 女木見子 | 坪田つゆ子 | 高嶋良子 | 田嶋三子 | 板谷清 | 海谷堅 | 川村義雄 | 西川初修 | 村中榮樹 | 佐藤正樹 | 〔坂井支部〕 | 小林すみ子 | 松森徹雄 | 〔大野支部〕 | | | |
| 90 | 95 | 83 | 95 | 85 | 89 | 93 | 87 | 95 | 92 | 78 | 71 | 75 | | | | | | | | | |
| 松宮広義 | 〔大飯支部〕 | 清水良男 | 〔小浜支部〕 | 松岡スエ子 | 松宮昂 | 〔三方上中支部〕 | 白藤壽々子 | 〔南条支部〕 | 飯田一郎 | 大岩昭 | 飯田治右衛門 | 箕輪久子 | 〔今立支部〕 | 大橋邦夫 | 吉田春樹 | 島山康子 | 〔武生支部〕 | | | | |
| 93 | 82 | 91 | 95 | 100 | 91 | 88 | 96 | 91 | 80 | 89 | 91 | | | | | | | | | | |

会員物故者氏名(敬称略)
(令和2年6月30日現在)
謹んでご冥福をお祈りします。